

働くあなたのクリニック

「COPD」を
存じですか？

COPDという名前をどの程度の方はご存知でしょうか。以前は肺気

コロナは他のよつな病氣
でしょりか。

でいた病気をその病態から慢性閉塞性肺疾患（chronic obstructive pulmonary disease）（COPD）、その英語の頭文字を取つてCOPD（シー・オーピー・ディー）と呼びます。なかなか、なじみがないですね。2016年の認知度調査では国民の25%ということで4人に1人しか知らない病気ということになります。ほとんどの原因がタバコの喫煙ですから、タバコ病なんていうのもわかりやすくいいと思うのですが、たばこ産業に悪いイメージをあたえるので、このようなネーミングは出ないでしょうね。今回はそのCOPDを取り上げようと思います。

COPDはタバコなどの有害物質の吸引によって肺に慢性的な炎症が起き、空気の流れが制限される結果、呼吸困難などの症状がみられる病気です。たばこが肺がんの原因の一つであることは広く知られていますが、タバコを吸いながらCOPDを心配している人はほとんどいないのではないかでしょうか。タバコの煙は肺にはいると煙の刺激で肺に炎症細胞が集まつてきます。集まつた炎症細胞から異物に対する反応としてタンパク分解酵素が放出され、肺の正常構造がゆっくりとそして気づかない程度に壊れていきます。また炎症の繰り返しが末梢の気管支の壁を厚くするため内腔が狭くなります。そして、

の機能が落ちてきますから、患者さんは「年を取ったので息切れがでる」とあります。咳や痰が出るのはタバコを吸っているからあたりまえ」といった都合の良い解釈をしてしまい知らない間に病気が進行していきます。

ききれないことで起きる、呼吸困難を感じます。また、喫煙刺激で痰が増え、増えた痰を出そうにも気管支の気流制限のため咳による呼気流速が低下するため、痰の切れが悪くなります。

COPDは珍しい病気でしょ
う。

症します。息の切れや痰の切れの悪さが年齢のためと考えがちになることや、活動度の低下により息切れを自覚しにくくなっているからかもしれません。もしもあなたが喫煙者や過去に喫煙をされていた人なら息切れはCOPDかもしれません。

治療の第一歩は禁煙です。禁煙するだけで痰が減るので呼吸が楽になりますし、禁煙を早く行えば行うほど肺の機能悪化をくい止められます。

COPD患者さんが最も気をつけなければならないのが、COPDの増悪¹という病態です。風邪やインフルエンザなどで安定した状態から急に悪化することをいいますが、増悪を繰り返すと肺の機能の低下を早め予後を悪くすると考えられています。

今月の先生



岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科

吉田 勉先生

専門分野
呼吸器一般、呼吸リハビリ
役職
呼吸器内科部長
呼吸器腫瘍内科部長
呼吸器病センター長
主な資格、認定
日本内科学会内科指導医、認定内科医・専門医
日本呼吸器学会専門医、指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
卒業年、主な職歴
平成2年岐阜大学医学部卒

す。そのため、日ごろから体調管理や予防接種などを行うことが大切です。特別な病気ではありませんので、信頼できるかかりつけの先生に治療を含め管理してもらいましょう。

症状として最初に自覚するのは勞作時の息切れです。肺気腫の患者さんは息を吐くのに時間がかかるため安静時のようなゆっくりした呼吸の場合は問題ないですが、運動をしたときなど早い呼吸では息を吐くのに時間がかかり、十分息を吐ききる前に次の息を吸い始めるため息が吐